

III 資料

キャリア教育推進委員会

1 はじめに

この委員会は、校長、副校長、教務主幹、進路指導主幹、教務部教育課程主任、進路指導主任・専任、研修・研究部主任で構成され、本校キャリア教育についての理解啓発及び12年間を見通した計画の見直しについての研究活動を行っている。本校の学校経営計画では、中期目標と方策の【方策3】において、「児童・生徒への小学部からのキャリア教育の充実を図る」と示されている。本校の教職員が児童・生徒に対する個別指導計画を作成する際、その中でキャリア教育に関する指導内容を明記し指導の充実を図ると同時に、保護者への説明責任を果たすこととなっている。つまり、教職員一人一人が学校の示すキャリア教育の目的を理解し、それぞれが担当する児童・生徒の生活年齢や発達年齢を考慮した上で「将来に向けて今、何が必要か」を文章化及び説明すること、そして実践することが求められている。

2 今年度の取組

本校におけるキャリア教育は、子供たちが「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人、職業人として自立していくことができるように、小学校段階から児童・生徒の発達段階に応じて、心身の育成を促すことを目的とし、「児童・生徒個々の願い・ニーズに応じた多様な社会への参加と自律的な生活を目指し、全教育活動の中で社会へ出る心身の準備を行う」ことを目標にしている。

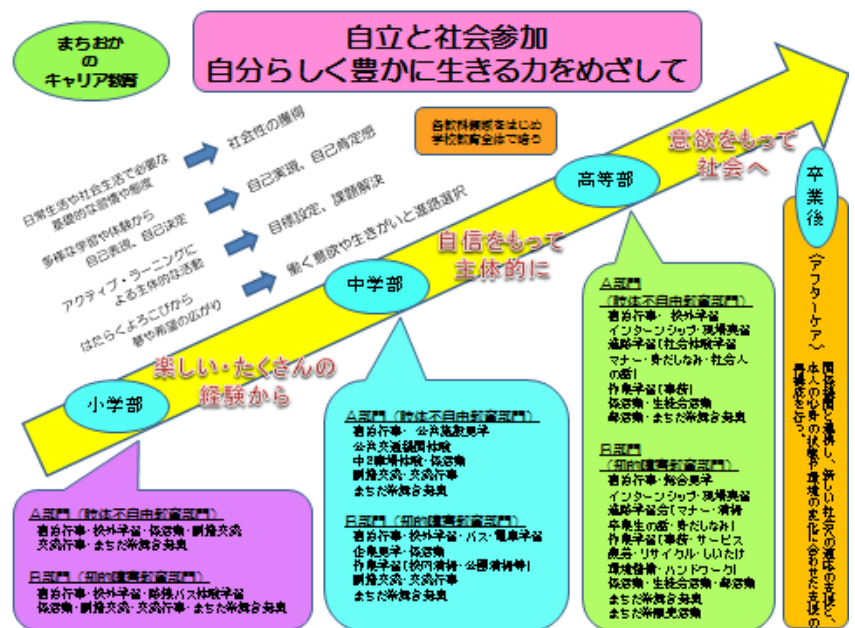
また、本校の進路指導は単なる職業教育・進学指導とは捉えず、児童・生徒の障害に応じて、全ての教育活動の中で卒業後の地域社会での生活を見通した包括的な指導を行い、「生きる力」の育成を大切にしている。キャリア教育、進路指導それぞれの考え方から、学齢期のキャリア教育を広い意味での進路指導と捉え、12年間の継続性を大切にしている。

以上の観点から12年間を見通した年間計画を作成し、学部毎の指導計画を4領域8能力でまとめ、学校全体で共有できるよう取組んできたが、今年度は改めて12年間の指導の流れを見直し、各学部の行事のねらいや系統性を整理し、キャリア教育の全体計画および学部毎の指導計画の見直しとともに、構造図の作成に取り組んだ。全体計画の見直しとともに、4領域8能力でまとめていた学部毎の指導計画をキャリア教育における基礎的・汎用的能力である「人間関係形成能力・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの力に整理し、キーワードを作成して客観的に見て分かりやすいように構造図を作成した。

3 次年度に向けて

校舎が分かれていることもあり、会議設定の難しさに加え、全体の会議の場で検討を重ねる難しさがあった。改めて会議のもち方について検討し、12年間の系統性について検討できるような工夫をしていきたい。また、今年度実施したキャリア教育の全体計画、学部毎の指導計画の見直し、構造図の作成について改めて検証し、より実際の指導の場面や個別面談等で生かすことができるようにしていきたい。

< 森山知也 >



進路指導部

1 進路指導の基本方針

本校における進路指導（キャリア教育）は、進路学習や現場実習だけでなく、教科・領域や日常生活の指導、特別活動など、全ての教育活動において実践されるものである。生徒達が卒業後、社会人として意欲をもって働いたり、地域で豊かに生活したりできるよう、生徒個々の進路・生活ニーズに合わせて「生きる力」を育成する。また、卒業後の進路は、本人・保護者が主体的に選択・決定するものである。進路指導においては、本人・保護者が卒業時により良い進路選択・決定ができるように支援を行うこと、そして、卒業後の生活については、本人・保護者が、就労・進学・福祉施設利用といった日中活動という観点のみならず、住まいや生活の支援を含めた形でイメージし、選択・決定できるよう進路相談を行っていくことを大切にしている。

2 今年度の取組

(1) 生徒対象

①進路学習会や作業学習における外部機関の活用

マナー教室	株式会社パソナハートフル、株式会社LITALICO
身だしなみ講座	株式会社ファンケル
作業学習	外部専門員、就労支援アドバイザー、ビルメンテナンス協会

②卒業生のお話を聞く会

本校の卒業生を招き、卒業後の生活や仕事での様子、学校時代に頑張っておいたほうが良いことなどのお話をうかがっている。身近な卒業生のお話を聞くことによって、卒業後の生活についてより具体的なイメージをもつこと、自分の将来について考える機会としている

(2) 教員対象

①施設見学会

夏季休業中に生徒のライフキャリアを意識した教育活動、進路指導、生活支援相談ができるよう専門性の向上を目指すため、企業を含めた本校児童、生徒の進路先や就学前施設、生活の場、放課後施設等の見学会を25コース設定。

島田療育センター、すみれ教室、ボワ・コンサル・ボワ・フルール・ケアホームあかね
ひまつぶしdeすぶーん、町田市わさびだ療育園、町田通勤寮、町田福祉園、花の郷、大賀藕絲館
クラフト工房LaMano、町田市生活実習所、シャロームの家・第二シャロームの家
町田かたつむりの家、サポートセンター町田とも、赤い屋根、なないろ、かがやき・こころみ
町田市美術工芸館、町田おかしの家、ボワ・アルモニー、地の星、つるかわ学園職業準備支援センター
利恵産業株式会社、株式会社富士電機フロンティア、リゾートトラスト株式会社

②進路指導部全校研修会

今年度は、怒りやイライラの対処法を学ぶことにより、対人関係とセルフマネジメントのスキルアップを行い、児童・生徒への対応力を身に付けることを目的に実施。

「アンガーマネジメント」 ～怒りやイライラの対処法～

M's ライフデザイン 代表 南 幸恵 氏

(3) 保護者対象

①施設見学会

7月に24か所、2月にはPTA進路部と協力して7か所の進路先見学会を実施し、見学を通して将来の生活について考える機会としている。

町田福祉園、ニーズセンター花の家、サポートセンター町田とも、花の郷、町田生活実習所
わさびだ療育園、地の星、ボワ・アルモニー、町田おかしの家、町田かたつむりの家、かがやき
つるかわ学園職業準備支援センター、スワンカフェ&ベーカリー町田2号店、第二赤い屋根
シャロームの家、大賀藕絲館、なないろ、町田市美術工芸館、クラフト工房LaMano
赤い屋根、黎音、利恵産業株式会社、株式会社富士電機フロンティア、リゾートトラスト株式会社

町田福祉園、ニーズセンター花の家、地の星、ボワ・アルモニー、株式会社ウェルハーツ小田急みずほビジネス・チャレンジド株式会社、ユニカミノルタウイズユー株式会社

②進路研修会

P T A進路部と協力し、本校保護者や地域の特別支援学級の保護者を対象に進路研修会を年間2回実施している。毎年6月の研修会は「企業」を、12月の研修会は「福祉」をテーマにしている。

6月『誰もが働き続けたいと思う会社をめざして』

～株式会社キューピーあいの障がい者雇用の取り組みについて～

株式会社 キューピーあい 代表取締役社長 庄司 浩 氏

12月『家族の関わり』 ～きょうだいの関わりや親亡き後を考える～

社会福祉法人 白峰福祉会 理事長 森 公男 氏

③進路学習会

本校及び地域の特別支援学級の小学部、中学部保護者を対象として本校進路指導部専任及びコーディネーターが講師となり、部門別に進路学習会を実施している。地域の進路先状況や福祉行政等に関する情報を提供するとともに、保護者が進路選択までの流れや特別支援学校卒業後の生活についての理解を深めることをねらいにしている。

3 地域との連携

(1) 情報交換会

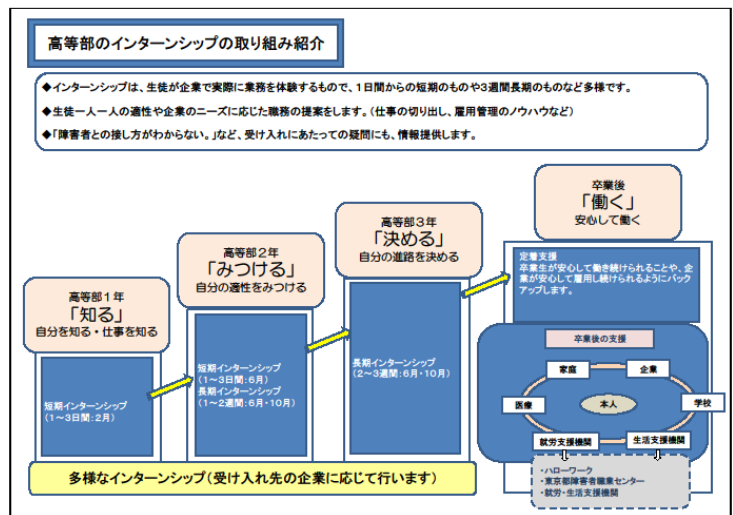
町田市内の生活介護事業所について定員が超過している現状を踏まえ、生徒の進路保障のために町田市障がい福祉課と協力し、年間3回「生活介護事業所等情報交換会」を行っている。また、地域における連携を深めるために、8月には町田市内のすべての福祉事業所に声をかけて「町田市通所施設等連絡会」を開催し、本校の現状と課題、進路指導の進め方について情報交換を行っている。

(2) 町田市との懇談会

P T A役員が中心となり、全校保護者に声をかけ、町田市との懇談会を11月に実施している。今年度は障がい福祉課をはじめ、防災安全課、こども生活部、すみれ教室から11名の出席をいただき、本校保護者から挙げられたニーズについて話をしてもらったとともに、障害理解をテーマに懇談会を実施。

4 インターンシップ、現場実習

高等部では、卒業後の生活を見据え、右図のように計画的に体験的な学習を積み重ねている。本校では長期のインターンシップを現場実習と呼んでいる。生徒数の増加に伴い、インターンシップ先の確保が必要となり開拓を進めるとともに、2月にはインターンシップでお世話になった企業に声を掛けて「協力企業連絡会」を開催して連携を深めている。



5 次年度に向けて

本校舎と山崎校舎に分かれたことによる課題についての整理、業務の効率化による質の向上を目指して取り組んでいく必要がある。また、よりよい地域との連携を目指し、町田市障がい福祉課とも協力をして取り組みを進めていきたい。

<森山知也>

校内医療的ケア委員会

1 平成 28 年度 医療的ケア児童・生徒在籍状況（以下、「医ケア」という）

常勤看護師 1 名 非常勤看護師 8 名

		小学部	中学部	高等部	計
児童・生徒在籍者（訪問生）		15（2）	9（1）	21（2）	50名
医ケア申請 児童・生徒		3（1）	5（0）	3（0）	12名
医 ケ ア 申 請 内 容	吸引	3（1）	4	2	10名
	経管栄養（経鼻胃管）	0	1	0	1名
	経管栄養（胃ろう・腸ろう） ※胃・腸ろう部の衛生管理含む	3（1）	3	3	10名
	エアウェイの管理	0	0	1	1名
	気管切開部の衛生管理	2（1）	0	0	3名
申 請 外	中心静脈栄養	0	0	1	1名
	導尿（自己導尿）	0	0	1	1名

* 上記他、体調不良時や拒食傾向等による経管栄養（経鼻胃管）の児童・生徒が数名在籍。

2 インシデント報告（1月末現在）

同じ事故を繰り返さないよう、また大きな事故につながらないよう、ささいなことでも報告し合って注意喚起を行っている。以下、今年度に起こったインシデントをまとめたものである。いずれのインシデントも、児童・生徒に体調変化はなかったものの、実施者によるチェック漏れや認識不足、勘違いなどのケアレスミスが原因となっている。

個別のマニュアルを確認しながら実施することや、ダブルチェックを徹底することなどで、再発防止に努める。

インシデント項目／発生月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
胃ろう接続チューブ側管からの漏れ		1					1	1		3
胃ろう接続チューブはずれ			1							1

3 今年度のまとめ

（1）吸引対応

日常的には吸引を要さず、季節性の鼻炎や体調不良時のみ吸引が必要になる児童・生徒について、行動範囲の拡大や保護者との分離などの教育的配慮を目指し、「日常的な吸引」と「一時的な吸引」に分けて対応することとした。学校内外の行動範囲等を明確に、また、宿泊行事における保護者別室就寝の可能性を広げることができた。

（2）日帰り校外行事における吸引（口鼻腔内・エアウェイ内）実施

非常勤看護師と実施教員が引率している行事については、保護者からの依頼を受け、ケース会を経て校外での吸引実施の可否を決定した。6つの行事で非常勤看護師や実施教員による吸引実施ができ、保護者と離れて活動できる等の教育的効果や保護者の負担軽減に繋げることができた。

（3）宿泊学習における保護者別室就寝

「一時的な吸引」対象児童・生徒は、保護者別室就寝することを検討できるとし、ケース会を経て別室就寝の可否を決定した。2つの行事で保護者と別室で就寝することができ、児童・生徒、保護者ともに貴重な時間となった。

（4）学校介護職員（以下、CS）による医ケア実施について

平成 29 年度は学校介護職員導入の 2 年目を迎える。肢体不自由部門の小規模化による指導體制の課題を考慮し、29 年度より CS による医ケア実施を決定した。

来年度も引き続き、医ケアの教育的意義を念頭に、より安全でスムーズな手続、実施を目指していく。

＜色摩 里津＞

研究研修部 夏のワークショップ

1 夏のワークショップとは

夏のワークショップとは、本校に在籍する専門性や得意分野をもった教員を講師として講座を開き、児童生徒の教育に生かせる知識やスキルを他の教員と共有し合うことを目的とした研修である。会場は、本校舎と山崎校舎を使用して、講座を実施した。前年度と同様、校内の教員以外に、町田市の小・中学校の教員にも参加を募り講座を開催した。

2 今年度設定された講座の日程及び内容

	日にち 会場	ワークショップ名	内容
1	7月21日 山崎校舎	音楽 ～授業の題材・アイデア～	学年や学部にあった幅広い教材紹介の他、音楽専科ではない教員が指導する授業を前提に、参加者が生徒となり、楽器等の体験をしつつ指導する際のポイント等が紹介された。
2		手話講座（学校で使う単語を中心に）	学校生活で使用する頻度の高い単語や、参加者それぞれが知りたい単語の手話が紹介された。替え歌で覚えていく方法で、多数の単語を繰り返し行って習得につなげた。
3	7月27日 山崎校舎	体育 ～運動の指導・支援方法～	小学部と中学部、それぞれの学年の体育のシラバスを持ちより、系統性の確認や指導の際に難しい点などを出し合って授業に活かす方法を話し合った。また、マット運動の指導や支援の技術を講師より学んだ。
4	7月29日 山崎校舎	授業に使えるICT教材	講師の多数の自作教材の紹介と、その仕組みの解説を視聴した後、参加者それぞれで情報教育機器を実際に操作の仕方や、教材作りなどを学んだ。
5	8月1日 本校舎	肢体不自由児への視線入力装置の活用について	本校にある視線入力装置（マイトビーC-15）の活用について、導入の考え方と具体的方法を、資料とデモ及び事例紹介により学んだ。後半は、参加者の視線入力体験を通して装置の設定方法を覚えた。
6		教材作りに便利なPowerPointの活用法	校務用パソコン（TAIMS端末）でも教育用パソコン（ICT/PC）でも教材等を作成する際に便利に使えるPowerPointの標準機能とアドイン（追加セットアップが必要）の活用法を演習中心に学んだ。
7	8月2日 本校舎	認知特性別支援の実際とポイント（WISC-IVを活用して）	近年、特別支援教育に求められているエビデンスベーストプラクティス（科学的な根拠に基づく指導）の基本となるアセスメントについての基礎知識を学び、それを活用するための具体的技法を体験した。
8		ダブルダッチ 初級・中級・上級	初級・中級・上級のグループ分けを行い、レベルに合った内容が提供された。縄回しや、跳び方、縄技などを中心に参加者が実際に行う時間を長くとり、体験型の講座となった。
9		授業で取り入れる和太鼓	和太鼓のたたき方だけでなく、身体感覚の大切さなどの話から始まり、具体的な指導の方法や授業で活かせる内容を実践で学んだ。和太鼓を多数用意することで、実際に叩いて学ぶ時間を多くとった。
10		特別支援教育におけるタブレット端末等の活用	特別支援教育においてiPadを活用する際のポイントの解説と本校での具体例な活用例の紹介を行い、後半は教材作成に便利なアプリを用いた演習を行った。

11	8月2日 本校舎	なんでもアート（音・遊び道具の簡単版画、造形演習などの探索活動）	自由な発想の活動で直感力が磨かれる。セレクトニンやシーター波の脳科学の話と、空間認識が拓かれる演習で、いろいろな素材版画、パウチッコアート、プラ版アクセサリー、カリンバ作り等、創作を楽しんだ。
12	8月3日 山崎校舎	図工・美術 ～授業の題材・アイデア～	教材紹介の他、実際に作品や教材作りを行い、授業への取り入れ方を学んだ。紙皿などの身近な材料から、プロジェクターを利用して拡大した絵の共同作品作りなども行った。
13		国語・算数 ～集団学習の授業作り～	講師が授業を行う上で大切にしていることや教材提示の仕方、工夫などを交え、指導計画や指導方法について学んだ。また、発達段階に合わせた多数の教材紹介もあった。
14	8月4日 山崎校舎	自閉症教育	前半は、自閉症児の特性や指導や授業を組み立てる際の環境設定、その他の配慮点などを講師から学んだ。後半は、グループに分かれて困っていることなどを話し合い、実践へとつなげた。

3 反省と評価

（1）講座内容について

どの講座も、講師が実際に授業で使った教材の紹介や授業づくりのポイントが紹介され、具体的ですぐに現場に活かせる内容であった。参加者が体験する模擬授業なども取り入れた講座内容により、分かりやすく、楽しみながら学ぶことができたという評価が多く挙げられた。

（2）外部からの参加者について

全講座合わせて、町田市内の教員約110名が参加した。アンケート結果からどの講座においても参加者の満足度が高かったことがうかがえる。1講座は90分であったが、もっと長めに時間を設定して欲しいという声が多かった。また、本年度の講座は内容が多岐にわたっており参加者の様々なニーズに広く応えることができた。次年度以降も広く参加者の要望に応える講座としていきたい。

（3）次年度に向けて

本校舎と山崎校舎で実施場所が分かれるため、次年度以降も、どちらの講座にも参加できるよう日程調整が必要である。また、特別支援教育のセンター的機能を果たす上で、外部からの参加者が受講しやすい日にちの設定や、より充実したワークショップの実施が求められる。

＜小池和夫、田辺美江＞